

『大人のための社会科——未来を語るために』

(J.K.)

まず、有斐閣の書籍らしからぬ斬新(?)なカバーデザイン(私の中では、有斐閣という固いイメージ)にまず惹かれました。パッと見、読みやすそうなイメージのデザインだと感じました。また、「大人のための」という書名にも。

トランプ大統領、イギリスの EU 離脱やヨーロッパの政治などの最新の事象を個別に読み解くような書物はたくさんあります。しかし、本書は、様々な分野の学者が最新の時事ネタも含め、今現在の日本の仕組みが何故こうなったのかというような歴史など、多様な情報をわかりやすくコンパクトにまとめていました。しかも、多様なテーマを扱いながらも全体として1つのまとまりを成している構成で、スムーズに読み進めることができました。また、参考文献もたくさん掲載しており、興味のある部分をさらに深めることも可能だと感じました。

実社会の中で様々な経験を積んだ大人にとっても新たな気付きや考えるきっかけを与えてくれる、先の見えない大きな時代変化の中で暗中模索している方々の1つの道標として役立つ書籍であると思います。

『法学教室』2018年1月号(No.448)掲載「Reader's Voice」より